

世田がや町総連左より

第3号

発行 世田谷区町会総連合会
 世田谷区世田谷1-23-5
 発行人 会長 三田隆眞
 編集 情報誌編集委員会
 編集委員長 渡辺三郎



町会運営今後の課題について

世田谷区町会総連合会副会長
 北沢地域町会連合会会長
 白石博

地域の安全を守り明るい町づくりのために長い歴史をもった町会が五十年前の占領政策によって「パージ」と云う断が下され、当

地域の活動についてはかろうじて婦人団体のみが許されることになりました。

その後の日本は生活環境をはじめ、文化の荒廃等良い習慣は予想もつかなかったひどい暗い社会に様変わりしました。

この一変した荒れはてた流れの中で再び町会が復活し、明るく平和でお互がなごみ合える地域をつくりもどそうとして働き始め、現在にいたりました。

しかしその町会活動の前途には幾多の難問が山積している気がしてなりません。

その難問の主なるものには次のようなものが挙げられるのではないのでしょうか。

第一は町会と言えよその地の人びと同士が仲よく共存共栄の心をもって結ばれている「グループ」で、我々の生活にはなくてはならないものと私は自負しているのですが、最近の人びとの中には「町会などの煩わしいものには関わりたくない」とする考えをもつ人達が多くなっていることはいなめない事実でしょう。

これらの人びとを含めて、町会の目的を説明し会員の増強を進めようとする町会にとつては、その手法が大きな課題ではないでしょうか。

第二は防災組織の見直し、強化の問題ですが地震は一分間で大体の勝負がつくものです。「地震は火を消せ」の前に一番大切な命を守ることでしよう。命を守り本震が収まったなら表へ出て、大声を発し隣り近所の安全を確かめる。それから火を消す、隣人を助けるなどなどになるのが住民が組織する防災活動の第一段階の指導要領ではないでしょうか。

第三は町会運営費の問題です。往時の町会と最近の町会活動はその種別も増え、その内容も経費が伴うものが多く、特に防災組織等については、町会費やその他の僅かな収入では必要最低限の器材購入も充たせないのが実情でしょう。

積極的な町会活動を推進しようとするには何らかの方法を考え、収入源を見出すことも大きな課題ではないかと思えます。

第四は高齢化対策についてですが、一般社会も町会も同じく、特に町会においては家庭も含めて町中明るい雰囲気、公序良俗を保持しよう努力しなければならぬが、社会福祉の推進という課題と絡み合い種々な問題が派生している現状であります。高齢化対策は行政の問題だと一言できめられるものでなく各町会とも今後大きな課題となるでしょう。

第五は「ゴミ」問題ですが焼却処理や廃棄場所の問題、その他「ゴミ」減量、資源活用や有料処理等何れもハッキリした見通しはなく現在は五里霧中の状態で私ども住民にとつてはまことに先の長い不透明な問題です。住民としても何等かの良策を考えなければならぬ課題ではないでしょうか。

世田谷地域

経堂南町会の事業

経堂南町会

会長

横田 政雄

当町会のやっている事業について書き綴ってみます。

まず初めに遊歩道の草取り清掃があります。この清掃は烏山緑道の一部分であり、当町会の内にある緑道



烏山緑道の清掃

であります。清掃作業では町会役員及び老人会の方々総出で、毎回三〇〇〜四〇〇名位の人数で草取り、あるいは空缶拾いが主であります。老人会の方々と若い町会役員の方々と意見交換など色々な話が飛び出して和気あいあいの中で清掃作業は実施されています。

かかれて、それぞれの地区の清掃に向い、特に空缶を拾い集めその後お菓子を貰い解散するという子ども達にとって夏休みの楽しみな一行事となっています。

又、町会として年一回の防災訓練を実施しています。町会の各地区より二〇〇〜三〇〇人位の方達が集合し、

す。その他、年末には役員・青年部を中心に歳末夜警を実施し町会内からの火事などが無くなるように寒さのなか頑張っています。

春・秋の二回実施されている全国交通安全運動にも町会役員さんのご協力をいただき交通整理などを行い、子どもや老人が安全に道路を歩けるよう警察のご指導をいただきながら実施しています。

以上大きく分けて行っている事業を書き綴って来ましたが、これは、安全で住み良い町づくりの一つと考え町会役員や町会員が共に手と手を携えて頑張っています。

最後になりますが、当町会内には「経堂南みどり会」という名称の老人会があります。南みどり会では会員の生活を健全で豊かなものにするを目的として活動しています。南みどり会では一週間に色々なこ



経堂南町会のお誕生日会

とを行っておりますので書き添えておきます。月曜日には、あみ物・ゲートボール。火曜日には詩吟・踊り。水曜日には輪投げ・手芸。木曜日にはカラオケ。金曜日には健康体操・ゲートボール。土曜日には民謡と幅広く活動しお年寄りの相互の交流も計っています。

北沢地域

住み良い街づくりを目標として

松原五・六丁目自治会

会長 宇田川 豊次郎

一、わが町は

東は梅まつりで名高い羽根木公園に接し、北は東松原駅、南は梅丘駅とに囲まれた一帯で、東松原駅周辺の一部に商店街がある。大部分が閑静な住宅地である。

住民の年齢層は高く、福祉をはじめ教育、環境、防災、街づくり活動等に対して関心が高い。約四、三〇〇世帯あり、アパートや寮などの集合住宅も多く自治会の加入は低い。しかし、最近阪神大震災の影響で防災訓練をはじめ区内の歴史探訪を兼ねた「歩こう会」を実施した結果、予期以上の参加者があり、その反応も早く、協力的になってきた。

二、住み良い街づくり(例)

(イ) 街を花と緑に

区と緑化協定を結んでおり、植樹や草花植え作業、緑化フェアの開催

・参加など

を通じて、緑と花いっぱい町の町にしたいと考えている。婦人部や緑化部会員などが中心となって、積極的にリードし活動している。その結果町の歩道わきの花が、いつも美しい。

(ロ) 放置自転車対策

区及び交通安全部会員、商店街役員等で、毎月及び随時に東松原駅周辺の放置自転車移動作業とPRに取り組んでいるが、一向に改善されず今後早期に駐輪場設置を含め長



花植え作業

(ハ) 防災対策・訓練

自治会の細部組織、消防団等と連携してポンプ操縦練習、避難訓練計画等をたて、訓練時には会員に年度によって非常持

出用リュック、懐中電灯、防災用品等を無料配布し、更に会本部には防災服、ヘルメット、腕章、標旗、タオル、救急用品等の資器材を整備している。また非常用飲料水のために浄水器の購入等を予定している。

今年の地区防災訓練に対して、地域の学校を通じて小中学生に広く参加を呼びかけたが、参加者が僅かであった。震災時地域にいる学童の安全対策についてどう対応するか、新たな課題が提起された。住民の意識が低く、今後その啓蒙や準備が不可欠である。

(ニ) 性風俗ポスター撤去作業

青少年松原地区委員会、北沢警察署等の協力により青少年の健全育成を目指し環境浄化に取り組んでいる。この運動を聞いて、自治会役員会は性風俗ポスター等を一掃しようとの声が出て、住民撤去の協力作業を四月に実施した。その結果、ポスターはほとんど町から



駐輪排除キャンペーン(東松原駅前)

消え大きな成果をあげることができた。

三、広報活動

(イ) 自治会だよりの発行と回覧

平成二年より「松原五・六丁目自治会だより」を毎月、定例役員会後に発行している。その内容は報告とお知らせ、事業実施の案内など班毎に回覧しており、既に五年目になる。

(ロ) 掲示板の新調、修理と再配置

古い木造掲示板を修理し、新たに十七脚を発注

玉川地域

し町内に再配置した。班毎の回覧板による広報と併せ、町内各所にある掲示板は自治会の動きや行政からのニュース、時事問題などがよくわかり、入会の勧めや各種募金、会費の集金等がスムーズ

にできるとの評価を得ている。

四、地区会館等の管理委託

区立松原地区会館・松原高齡者在宅サービスセンターが地区に平成九年に開設することが計画されてお

りその管理が当自治会に委託される予定である。地区会館が完成されることにより地域住民のために、新たなコミュニティ活動が展開され重要な拠点となる。自治会としては積極的にこれを支援してゆきたい。

東深沢町会

会長 安田 秀雄

東深沢町会は深沢の東南に位置し深沢三丁目を中心にして町会活動をしており

会、其の後、深沢三丁目東町会、さらに昭和六〇年より東深沢町会と改名して現在に至っております。

者が立候補でき、町会員の直接選挙により選出されます。

町内には、めぐみ保育園、深沢公園、中央通りには東深沢商店街振興組合(エーダンモール深沢) 呑川緑道公園、東深沢小学校等があります。又近隣には東深沢

深沢公園内にはC型D型ポンプ倉庫があります。尚近日中にリサイクル倉庫も出来きます。

又は理事経験者の中から会長が委嘱します。現在は各2名ずつです。

中学校、学芸大附属小・中学校、都立園芸高校、駒沢オリンピック公園、深沢地区福祉会館も近くにあり大

等のあるなかで、町会、商店会、東美会(老人会)と一体になって行事を進めております。

財務部・総務部・文化福祉部・防災防火部・環境衛生部と五つの部に分かれて運営しています。

組織

当町会の歴史は浅く、戦後出来た町で当初は二六町

町会長の任期は四年で、町会員で一年以上居住した

環境衛生部

毎月呑川の清掃を各地区

文化・福祉部

春の行事として呑川の桜まつりがあります。企画担当は商店会ですが、三者会談を開き実行委員会を設けて企画をねります。東美会は園芸担当、町会は受付売店接待等を、又日中は野点甘酒の無料サービスを担当し、夏の行事は町会が企画を担当します。

毎年小学校の夏休みと同時に深沢公園に於いて、ラジオ体操を実施します。

又、商店街中央通りには町内小学生の絵画展を、一週間街頭展示し、買い物のお客様に見て頂きます。この担当は地区青少年対策員と小学校地域班のお母さんと話し合い画題等を決めて実施してきます。

続いて7月末には盆おどり大会を三日間実施、商店会の担当は売店、東美会は踊りに協力します。秋には旅行、今年伊豆方面の地震多発により急遽福島之母畑温泉に行きました。

ごとに割り振り落葉期、開花後等は特に毎週のように実施しております。又五月三〇日前後の日曜日には、ゴミゼロデーを実施し、町内の清掃を町会員全員参加して行います。

東美会も隔月に呑川の清掃を、又小学校の校外班のお母さんと子どもさんも夏休み中には協力します。

防犯交通部

春秋の全国交通安全運動の立番を東美会商店会からの協力を待て部員が担当します。町内の放置自転車の整理を年に二回実施してきます。



夜警第5地区

夏休み中の夜警も二日間
部員担当で実施、尚年末の
夜警は各地区役員の協力を
より実施しております。

防災防火部

今年の防災防火部の活動
はきめこまかく訓練をする
事にしました。

「二月二十四日防災懇談
会」「三月十二日深沢公園
に於て防災訓練」「三月十
六日D型ポンプ婦人隊員訓
練」「五月十四日、六月十
八日、七月九日の三回各地
区別に消火器による初期消
火訓練」。

そのほか、防災運動会を
十一月二十六日東深沢小学
校校庭で実施。

地域支え合い活動

町内のボランティアの方
と保健婦さんと民生委員に
より、すぐかけ会が九日程
前より発足しております。

此の会は軽い障害者の方と
高齢者を対象にして毎月二
回深沢地区福祉会館で唱歌
おどり遊戯、保健婦さんに
よる健康体操を実施してい
ます。

又障害者の会として、み
ちくさ会があります。此の
会は小宮顧問が主になって
月一回東深沢町会事務所を
利用して実施しています。

すぐかけ会クリスマスパーティー



みちくさ会員招待席 抹茶のサービス風景



昨年十二月には、すぐか
け会、みちくさ会ともクリ
スマス会を実施、三月には
ひな祭り。

より山田講師をお招きし、
車椅子の操作講習会、介護
問題研修会等を開催しまし
た。その他季節ごとにお花
見、盆おどり、紅葉狩り。

第一回車椅子の貸出し、十
一月二十六日防災運動会に
は車椅子の操作避難訓練等
を行いました。

投稿

平成七年度国勢調査を終えて

代沢中町会会長 宗 晴

私は昭和五〇年度(当
時の任命大臣は内閣総理
大臣 三木武夫)の国勢
調査から、今回で五度目
の国勢調査員を経験した。
今回の調査では、つく
づくと社会状況の変化と
住民の調査に対する態度
の変わりようを感じたので、
五年後に行われる調査の
参考資料として、問題点
をあげてみた。

一、町会によっては調査
員の推薦に苦勞された
と聞いた。例えば前回
で懲りた人は調査員を
受けてくれない。又、
四〇代、五〇代の主婦
は、何か副業をもって
いるため協力してくれ
ない。

二、管理人不在のマン
ション、アパートは、
非常に調査が困難であ
る。又、オートロック
マンションの居住者に
面接することの困難な
こと。

三、調査表の回収では、
アパートの住民で、ド
アをノックしても開
けない。電灯を消して
いないふりをする。回
收期間十日間位不在に
なる。等々。

四、パートタイムの就業
者に会うには、朝、昼
晩と度々足を運ばなけ
ればならない。

以上問題点をあげてみ
たが、総じて感じたこと
は、「国勢調査が今後の

国政にどのように役立つ
のかという点の認識不
足」と、
「現代人にとっては
「プライバシーの侵害」
とのみ受け取れるのでは
ないでしょうか。

さて、五年後の国勢調
査に対して、総務庁に調
査方法の改善をお願いし
たい。

調査表の配布は調査も
れないように、各戸に
配布し、調査表の回収は
郵送又は、出張所等役所
の回収箱に入れる。

内容のチェックは、専
門家を養成し依頼する。

以上、多数の調査員の
声も聞き、まとめて書き
ました。

地域 砦

永遠のテーマ 自治会活動

法人格 成城自治会

会長 宮 壽 康 幸

大正十二年九月、突如関東大震災発生、成城学園の郊外移転と並行した住宅開発、さらに昭和二年小田急線の開通は武蔵野の自然環境と閑静さ、整然とした碁盤目、角切り区画、幅員ある道路、より好ましい環境のための生垣と豊かな緑、開放的で個性ある住宅の町並み、内容外観共に理想を具現した文化的資産価値を持つ住宅地域『成城』の始まりでした。

しかしこの成城に昭和四〇年代から、地価の異常高騰が起こり、資産税相統税の高負担、平均化促進という基本政策が採用され、更に、個性ある建築費の高騰、宅地細分化などの問題が生じた。続く地価の異常急落等外部要因により街そのものに環境変化の兆しをみ、それは文化的資産価値をもつ住宅地域の存在を否定し

兼ねない状況になった。時の流れとはいえず、良き街の維持継続、進むべき方途の模索、自治会はいかに在るべきかと自問しています。

法人格成城自治会を概略紹介致しますと、会員約四〇〇〇名、約四〇〇名の班長、四十三名の役員、その役員が総務、経理、文化、

防犯、防災、環境の六部門に別れ会務を分担執行し、別に事務局を置く構成です。

部活動の一部を申し上げますと、文化部に属する編集委員会が担当する月刊の会報『砦』は、回を重ねて遂に平成六年十月五〇〇号を

発行、自治会活動に貢献、また初期の『砦』は、文化的資産として、区の要請を受け世田谷文学館に展示されております。

防災部が所管する防災対策は、必ず来る大震災にいかに対処すべきか、一ケ年を迎える阪神大震災の災害を高価な教訓とし、その対



▲ 満開の桜の下 成城フェスティバル風景 ▼



策を模索中です。災害発生と同時に救援活動が始動する様な事態は単なる災害に過ぎず、本当の大震災は広範囲大規模地域内の救援機関の機能や施設もまた被災し、交通は麻痺し、地域外からの救援活動は二日から五日間を必要とするものと認識し、その間は自分自身でわが身を守るものと考え、その準備は甚だ問題が多く、一般的対策は別として、家屋の耐震診断から始まり、部屋の落下危険物の点検、家族の外出時の対策、非常食の確保、酷暑厳寒深夜発生時の対策を考えなければ

ならない。また個人特有の必需品、特に血圧関係の疾患の方にとっては、薬の切れは、死を意味すると考えなければならぬ。〇×式のマニュアルを作成して災害対策を日常生活の中に溶け込ませ、悔い無きようにするため、その具体案を試作中。

更にはこのような自治会活動を地域住民全般に浸透するために、他地区より加入率が高いと評価されてはいるものの更に多くの世帯が自治会に加入するよう推進し、実現に努力したい。

さて、自治会活動は会自体の体質強化が先決と考えている。平成三年四月、所有する資産の継承時の負担を免ずるため法人格の優遇制度を受けるべく区、都内ともに第一号にて認可を受けたことも、その一例に過ぎない。さらには自治法人の法制化、活動助成交付金の増額を渴望する。

いずれにしても自治会活動は永遠のテーマをいつも持ち続けなければならないことを認識したい。

鳥山地域

わたが町の行事

八幡山町会

会長

長島 清一

わたが八幡山の町は、神社を中心にして町会、地元青年会、婦人会、商店街など多くの人が一体となって作りあげたすばらしい町です。

ここで年間の行事の一部、紹介させていただきます。

一月 元旦午前〇時に八幡社に初詣りの皆さんが五〇〇メートル以上の長い列ができます。参拝を終えた皆さんには氏子、青年会、町会役員から甘酒や樽酒が、ふるまわれ、焚火を囲んで新年の挨拶がかわされます。

まだ正月気分が抜けきらないうちに町会の活動が始まります。

まず、青年会による古紙回収は歴史が古く、すでに二十二年前から行っておりです。

また、婦人会では、アルミ缶の回収を十五年前から実施しています。月

に約一〇〇キロ回収され実施日は毎月第二日曜日と決めているので誰ひとりとしていやな顔ひとつせず参加してくれます。

二月 高齢者センターの新樹苑で、もちつき大会を毎年行っています。町会、青年会商店街等が一体となって協力し合って実施し人の集まりも多く賑やかです。

五月 ゴミゼロデーには、町会の婦人会、青年会、商店街等町内一体となって町の全域をくまなく歩き清掃しています。

七月 高齢者センター新樹苑で開催する盆踊り大会は、夕方から3時間があつというまに過ぎいきます。設営などの準備には町会の婦人会を始め、いずみ会、青年会、商店街等で模擬店も出店しております。口にほおぼつ

た人 踊る人 見物する人達で苑内は熱気に包まれ大変賑やかです。

八月 世田谷ふるさと区民まつりには山車と神輿が参加しています。町会、青年会、商店街の人達が多勢応援にかけつけ、まつりを盛りあげています。

その他にラジオ体操を八幡山小学校で行っています。月末の土曜日には、寄贈品だけによるバザーを八幡社で開催し賑わっています。

九月 神社、町会、青年会、商店街等が協力し町あげの秋祭りがあつきます。

道ゆく人が山車を牽く子どもたちの数の多さに「どこからこんなにたくさんの子どもが集まってくるんだらう？」と不思議そうに話しあつているのを散見します。

一日中町内巡行し、休



町あげでの秋祭り

憩所を回って神社に帰り着くころには、両手にビニール袋、背中にはいっぱいのお菓子、地元の暖かい心が詰まったりリュックサックを背負った子ども達の顔が興奮と喜びで真っ赤なのが非常に印象的です。

十月 町会のいも掘り大会をはじめ「さーいらっしやい、いらっしやい、安いよ！安いよ！」と威勢のいい声で始まった恒例の朝市。「べったん、べったん」と餅つき大会、町会一体となつての行事で、七五三、餅つきと朝市の一日です。子どもか

らお年寄まで一緒に、つきたてのお餅を食べたり、ついたり楽しいひとときです。

続いて防災訓練があります。町会の防災部が主体となり「自分の住む町は自分たちで守ろう」をモットーにして多くの地元の人達に声を掛け合っています。大勢の地元の人達さんが参加しますので訓練は非常に活気があり有意義です。

プログラムに準じて訓練中、急に雨が降ってきた場合にも、すぐ大きなテントが青年会によりたちまち張られ、参加者か

らその手際良さに驚き感嘆し、大きな拍手が起ります。参加した会員は次回の訓練にも是非参加しようといいに約束して帰られます。

十二月 忙しい月ですが二十五日から三十一日まで夜警があります。地元の消防団員を始め、青年会役員と子どもたちの夜回りが始まります。「火の用心」「火の用心」と子どもの可愛い声に「ご苦労さん、風邪をひかないでね」の声が家の中からかかります。



八幡山小学校での防災訓練

その他八幡山町会は身近な人びと同士の気持のよい



新樹苑もちつき大会

気づかいや励まし等の交流、またちよっととした困り事や悩みごとがあれば近所で支え合えるそんな町にと頑張っています。

その一つとして本格的な高齢化社会を迎え『地域の支えあい活動』として世田谷区のモデル地区に指定されています。人と人のつながりを深め住民が自主的に福祉活動の推進をはかるべく町会が主体となって現在取り組んでいます。地域の多くの方から感謝の声を聞かれています。書きたい事が多くありますが紙面の関係で割愛いたします。

町総連二ニュース

平成7年7月6日の総会以後、つぎの会議が開かれました。

☆8月25日 常任委員会

議題

- 一、研修会等について
- 二、世田谷清掃工場の建替促進の署名活動への各地域の取組み状況について
- 二、については事務局において請願書を起案し、各町会単位で署名をとりまとめることとなった。

☆9月22日 正副会長会

議題

- 一、移動常任理事会について
- 二、世田谷清掃工場の建替促進の署名活動について
- 三、事務運営費の配分について

☆12月8日 移動常任理事会

前回の常任理事会における打合せを受けて、今年は一泊の研修旅行を取りやめ、本所都民防災教育センターの見学を行った後、清澄庭園において江東区町会連合会との懇談会を実施した

(別紙町会連合会日より第3号付録参照)。

また新年の関係機関との親睦交流会について打合せが行われ、さらに総会において、処理方法が常任理事会一任となっていた連合会の事務運営費を、事務局である各出張所を経由して各地区町会連合会に一律に分配することが承認された。

情報紙編集委員のうち齊藤孝雄(北沢地区)、島田弥太郎(砧地区)両氏の辞任に伴い宇田川豊次郎(北沢地区)氏と神宮寿夫(砧地区)氏の両氏が後任にきまりました。

〈町会長異動〉

10月1日付

◎池尻団地自治会

(新) 小林昭彦

(旧) 山内高雄

◎清水建設砧アパート自治会

(新) 勅使由仁

(旧) 高田 徹

11月9日付

◎羽根木町会

(新) 遠藤 馨

(旧) 榎本信雄

編集後記

お悔やみ申し上げます
駒沢町会長 田中重夫
7年7月9日

前号で防災特集という大きなテーマをとりあげたので、今回はまた各単位町会を見つめ直すということになりました。町会の部会活動についてという共通話題で各地域から一町会ずつご紹介をいただいたところ、各地域で執筆を担当して下さる方々が、この形式に馴染んでこられたのか、質・量ともに揃ってきたように感じますが、如何でしょうか。今回はじめて「投稿」として町会長が国勢調査でどんな苦労をしているかという発表がありました。これからも町会活動に関してのご意見があれば、所属する地域の編集委員を通じて、どんどんご発表下さい。単位町会長すべてに、いつも本誌を開放しておきたいと思っております。

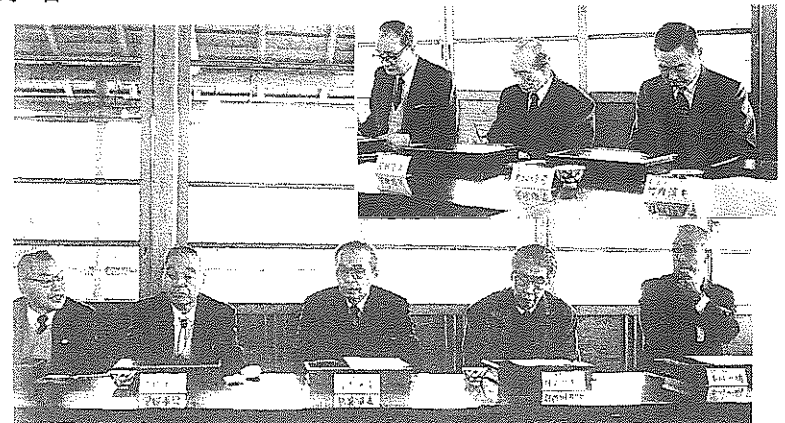
せたがや町総連だより第三号付録

江東区における 地域防災について

平成7年12月8日(金)江東区の清澄庭園で世田谷区町会総連合会常任理事会と江東区町会連合会との懇談会が催された。目的はいわゆる海抜0メートル地帯の下町と、山の手の世田谷との防災意識や、具体的組織づくりにおける相違、かつまたハード面での準備状況などを直接見聞して、当連合会の活動に役立てようというものであった。

常任理事会はまず竹内副会長の開会の辞にはじまり、三田会長の挨拶に続き来賓として大塚助役のご挨拶をいただき、ついで事務局ほかから報告事項が提出されこれを了承、昼食の後、本題の懇談会に移った。

関東大震災、第二次大戦中の米軍空襲、毎年のように繰り返される荒川の氾濫など災害を経験することの多かった江東区と、関東大震災ではほとんど被害がな



発言者 (順不同 敬称略)

- 江東区町会連合会会長 梅田末松
- 豊洲地区町会自治会連合会会長 上田幸男
- 小松橋地区連合町会会長 小泉昭三
- 富岡地区連合町会会長 大野良瑞
- 江東区役所防災課長 合田進
- 江東区防災係長 竹内康夫

砧地域 高橋重信
 世田谷地域 神保充夫
 玉川地域 清水齊
 世田谷地域 安田憲吾
 世田谷区役所防災課長 渡邊憲四郎

司会 初めにご挨拶を兼ねて各地区の特性の紹介からお願したい。
梅田 江東区の人口は三十八万で昔の深川区と城東区を併せたもので二百六十二町会がある。

非常食、医療器具は出張所単位に配布され、災害情報は無線で各町会に伝えられるが、今見直しをしている最中で情報を「固定系」「移動系」「地域系」に分けて考え、学校屋上や商店街のスピーカーでカバーするように計画している。

ほぼ全町会に一つに相当する災害協力隊二百五十九隊があり、各月に訓練や、備品の調査を行う。食料品は乾パン二十万食、スープ十二万食、粉ミルク二万七千食を持っている。

給水所は豊洲、亀戸、南砂等四ヶ所です。一人一日三

リットルとして十三万乃至二十万人分を確保している。消火器は町内五十メートル間隔で設置してある。消防団、消防署との連携作業では水利の割当、分担に重点を置いている。

上田 地区内には八出張所があり、災害対策を予知できるもの(氾濫)と予知できないもの(地震)とに分けて考えることにしている。町内が幾つもの堤防で区切られているので、災害協力隊の行動は、それに応じた態勢をとっている。

旧城東区即ち亀戸地区、砂町地区から小松橋を江東区を中心と考えると、白河、富岡、豊洲は川沿い地区ということになり、0メートル地区と言われる。

各災害協力隊はそれぞれ計画書を作成して防災推進本部に提出中で、約半数が提出済み、残りは鋭意作成中である。避難所の設置ばかりでなく、そこへの避難者を守る「沿道消火隊」も編成してある。

小泉 軟弱な地盤で建造物には四十メートルの杭が必

く、空襲体験のみの世田谷では、常識的に世田谷の方が安全だと自負していたが、この懇談会によって、0メートル地帯必ずしも危険が一杯ということではなく、組織やハードの面で世田谷を数歩リードしているのではないかという反省を抱いた。

以下に当日の質疑応答の詳細を報告するので各単位町会での活動の資としていただければ幸いである。

要な地域である。備蓄倉庫が多数設けてある。訓練は夜間に避難所に集まって実施する。

各町会に災害協力隊を作っており、隊ごとに人命救助用の工具(掛矢、金床、ボール、油圧ジャッキ等)一式が近日貸付けられる予定。

上田 豊洲地区は副都心という構想で開発が始まったが変貌しつつある。人口は少ない。塩浜、辰巳地区は集合住宅が多く、この辺が見直しの重点になっている。三十二町会があつて、高潮対策としての護岸整備が重要項目である。町会は救難用の船を持っているのが普通である。

高橋 備品倉庫用の土地はどこで手配するか。
小泉 主として公園、ただし用地がなくて困っているところもある。
大野 お祭りが盛んな地域で神輿置場があり、ほとんど総ての町会は町会事務所を持っている。
神保 町内の弱者、危険物の所在確認にはプライバ

シーの点で問題があると思ふが。どう解決しているか
大野 町会としては大体分かつているので、各個人に要望を聞いて表を作り、配っておくとその人をケアするボランティアが決まって来つつある。

神保 行政が調べるのか、町会が調べるのか。
江・防災係長 町会として考えて貰っている。
清水 災害協力隊の組織はどんなふうになっているか
大野 各隊によって多少違うが青年、婦人、老人、医師、看護婦の五部ほどの隊にもある。

日常的調査でブロック塀二十九箇所、木造住宅二箇所など危険箇所をリストアップしてある。
梅田 消防署(永代)との連絡を日頃密にしている。今話のあつた弱者のデータなどは消防にも渡してある。
上田 災害協力隊の計画書の内容について説明すると、まず町内の組、班の編成から始まる。豊洲では千四百五十世帯を二十八班にわけ、集合住宅は一棟を一班とす

る。時々幹事会を開き災害協力隊はこういう仕事をするとPRしている。
区の助成は千所帯以上について二十万で、町会でも予算づけをして組ごとの態勢づくりに努力している。今年中に地中から水の溢れてくるマンホール、危険な看板、電柱の変圧器などの確認をして防災マップを作る予定。これまでに六カ月掛かったが、大半は幹事会での意志統一に費やされた。八年度は更に予算も増える予定である。

世・防災課長 関西の地震によって住民の意識はどう変化したか。
上田 高齢者の日頃の健康づくりについて住民に関心が高まり、懇談会などが持たれた。

江・防災課長 人命救助用具の整備が特に急がれた。
安田 町会として予算が沢山必要になるだろうが、町会費は幾らぐらいか。
大野 町会によってまちまちだが百円から千円の間で、会社からは一万円貰っているところが多い。

小泉 小松橋地区では月額三百円、千世帯で年間約四百万になる。千世帯のうち四百が一戸建てで、マンションが六百世帯である。マンションを建てる段階で全員町会員になる約束をとりつけている。民間のものでも、公社のものでも同様である。従って町会加入率はほぼ百パーセントである。管だが、民間のアパートに単身で入居している者は必ずしも全部捕捉できていない。

上田 一九五〇世帯の百パーセントが加入しているといいたいところだが、豊洲地区は事業所の町になる筈だったが今、住宅の町に変わりつつあり、事業所が移転の最中であるため九十四パーセントくらいになっている。会費は二百円である。
マンションの中には一棟で四百六十六世帯という大きなものがあり、その場合はその棟だけで管理組合を作っている。
司会 会員の加入率とか会費とか町会運営上切実な話

となり、懇談は正に住境に入ったところだが、帰りのバスの時間の関係でこの辺で打ち切りたい。

最後に倉本副会長より閉会の辞として深甚な感謝を述べて交流会は解散した。

今回の交流を通じて江東区では町会連合会も区役所側も、災害というのっぴきならぬ現実に直面して「成熟した大人の関係」で相互に対処し、町会は行政の末端としての扱いを何ら疑いもなく担っており、一方行政も町会に資材、機材を預けたり、多少プライバシーに触れる問題でも調査の責任を任せていることを知ることができた。ある常任理事が会場から表通りまで江東区の合田防災課長と歩きながら話合つたところでは「町会は行政の末端に成りえない任意団体ではないか」という我々の基本的な議論は江東区では問題になったこともないということである。大変考えさせられる交流会であった。

（文責 渡辺三郎）